

本資料のうち、黒塗りの箇所は営業秘密及び個人情報に該当するため公開できません。

敦賀発電所2号炉 発電用原子炉設置変更許可申請の補正の概要について

参考資料2

ボーリング柱状図・コア写真の
トレーサビリティの確保について

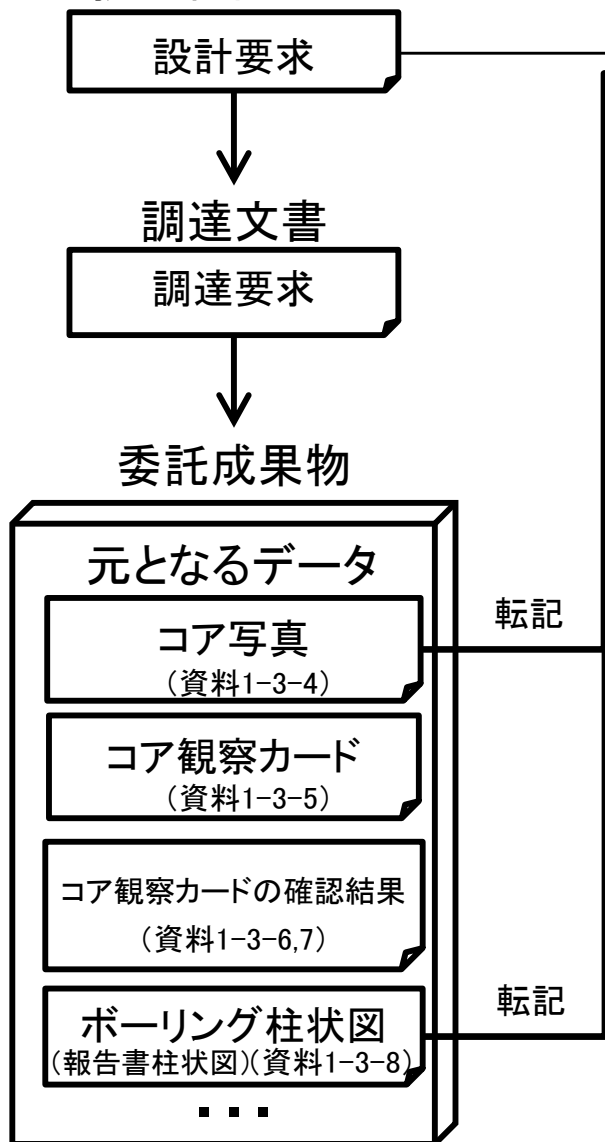
令和5年9月22日

日本原子力発電株式会社

余白

- 審査資料作成までのプロセスを以下に示す。
- 委託成果物のボーリング柱状図，コア写真を転記して，技術設計資料のボーリング柱状図，コア写真を作成した。
- 技術設計資料のボーリング柱状図，コア写真を転記して，審査資料のボーリング柱状図，コア写真として作成した。

技術検討書※1



技術設計資料※2 ボーリング柱状図(資料1-3-3), コア写真

↓ 転記

審査資料 ボーリング柱状図・コア写真(資料1-3-2)

H24-D1-1 (1 / 21)

ボーリング柱状図

ボーリング名	H24-D1-1	調査位置	X:338.353, Y:1103.283	北緯	35° 42' 19.30"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年3月7日～2013年4月22日	東経	136° 1' 1.43"
調査業者名	〃	調査者	〃	ボーリング	〃
孔口標高	26.20m	地質	〃	ボーリング	〃
掘削深さ	100.00m	掘削機	エンジン	ボーリング	〃

コア写真

孔番 D1-1 孔 深度 0.00m～18.00m
孔口標高 20.25m

0
1
2
3
4
5
:
45
46
47
48
49
50
51
52
53

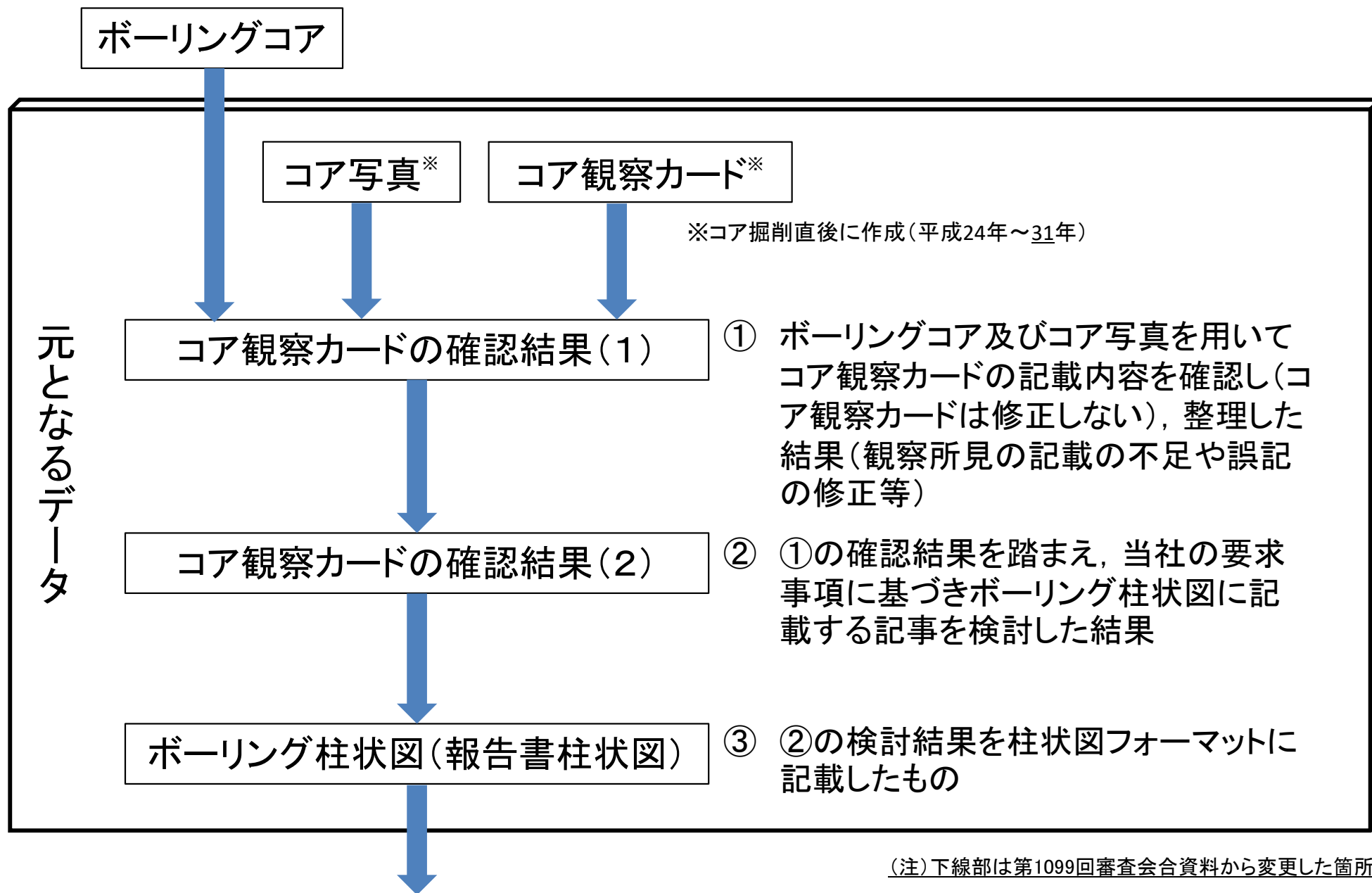
ボーリング柱状図(報告書柱状図)の作成の流れを次頁に示す。

※1: 技術検討書 = 当該技術設計資料作成のための要求事項を取りまとめたもの(設計要求事項, インプット)

※2: 技術設計資料 = 当該設計開発のアウトプットとして当社で作成する資料

・今回のボーリング柱状図(報告書柱状図)作成までの流れ

前頁に記載の元となるデータ(コア写真, コア観察カード, コア観察カードの確認結果, ボーリング柱状図(報告書柱状図))の関係を以下に示す。



技術設計資料ボーリング柱状図, 審査資料ボーリング柱状図へ転記

- 技術設計資料のボーリング柱状図(今回作成計14孔)について、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察のみの記載にすることとし、作成に当たっての要求事項を技術検討書で明確にした。

要求事項:

- 技術設計資料に用いるデータはトレーサビリティを確保する。
- 技術設計資料に用いるデータのうち、元となるデータを明確にし、元となるデータの内容は変更しない。また、技術設計資料に用いるデータ(元となるデータを含む。)の出典(品質記録, 外部文書等)を明確にする。
元となるデータ: コア写真, コア観察カード, コア観察カードの確認結果※1, ボーリング柱状図
- ボーリング柱状図には、コア掘削後の肉眼による地質観察結果を記載する。ただし、肉眼観察の対象物であるボーリングコアが長期保管により状態が変わっている可能性があることから、ボーリングコアに加えてコア写真及びコア観察カードを活用する。
- なお、コア観察カードに記載されている断層名、破碎帯名については、観察者の見立てであることからボーリング柱状図に記載することとし、その断層名、破碎帯名の妥当性については、「K断層の連続性評価」において検討し、その結果を記録として作成する。
- ボーリング柱状図は、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき作成する。
 - a. 破碎部や節理等については、コア観察カードも活用し、観察事実として認められるものを柱状図に記載する。
 - b. 柱状図記事欄における破碎部の記載については、同一破碎部において破碎度区分などが同じであり連続しない場合、破碎部の性状に関する記事についてはまとめ書きは行わない。
 - c. なお、コア観察カードの確認においてあらためて確認された断層岩区分の3要素(破碎部の硬軟、細粒部の直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無)、最新活動面については、ボーリングコアの詳細観察結果又は最新活動面の別資料にて取りまとめるため柱状図記事欄には記載しない。

※1: 観察カードの観察所見の記載の不足や誤記の修正等を取りまとめた記録(今回、ボーリングコアを確認しながら作成)。

(注) 下線部は第1099回審査会合資料から追記・変更した箇所。